

北病院

耳より情報



生活の場が治療の中心 ～身近な支援者の 協力を得て～

北病院外来
糖尿病認定看護師

前田 るみ



「調子いいからって勝手に薬止めたら、数値が上がってその後が大変だから気をつけんといかんよ」診察室での会話？いえいえ、そうではありません。ウォーキング中、歩道脇ベンチの端に座った男性が、もう片端に座った男性に、やさしくそして力強く語りかけているのです。多分、糖尿病の薬のことだと想像した私は、「その通りです！」と思わず駆け寄っていきたいところをぐっとこらえて通り過ぎました。「正しい知識を持って、気持ちに添いながら、一緒に考え行動するサポート」の場面そのものでした。

糖尿病の治療は、患者さん自身が行う日々の自己管理がとても大切です。しかし一人で長く療養を続けるには限界があります。家族や友人は患者さんの最も身近な支援者で、大きな力になることをあらためて学んだ一瞬でした。私たちも頑張らねば！